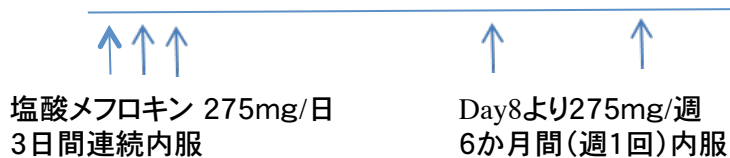


本邦発症進行性多巣性白質脳症に対する塩酸メフロキン投与 の多数例での検討

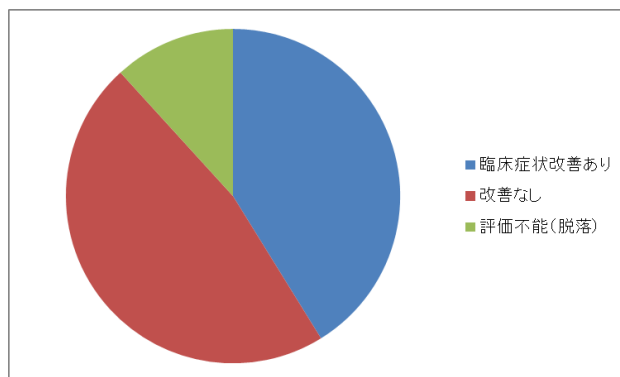
研究協力者:がん・感染症センター都立駒込病院脳神経内科 三浦義治

研究代表者:金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学 山田正仁

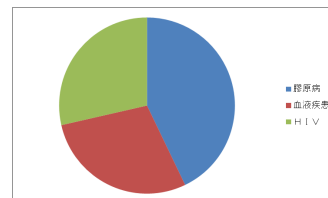
1.塩酸メフロキン投与プロトコール



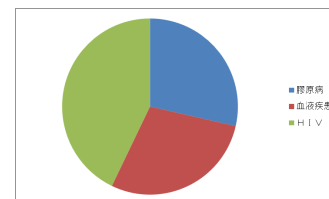
2.結果



有効例での基礎疾患



無効例での基礎疾患



解 説

- 2010年6月以降国立感染症研究所にて髄液JCV-PCR検査陽性であったPML症例のうち、上記のプロトコールに従って塩酸メフロキンを投与した症例を集計し、17例の症例情報が蓄積された。
- 塩酸メフロキン投与6か月後の結果では、7例で臨床症状の改善があり、うち2例では合併症で死亡。8例では臨床症状の改善なく、うち7例で死亡であった。2例で投与中止となった。有効例7例での基礎疾患はHIV2例、血液疾患2例、膠原病3例であったのに対し、無効例8例ではHIV3例、血液疾患2例、膠原病2例であった。